

# 市内循環バスぐるっとくんの 運賃の見直し（案）

令和6年6月

上尾市

## はじめに

市内循環バス「ぐるっとくん」は、平成 10 年 12 月から運行を開始し、その後平成 28 年 2 月に大幅な再編を行い、6 路線 69 便から 9 路線 96 便へと拡大しました。

「ぐるっとくん」運行の目的は、主に民間バス路線網の空白地を補完することにあります。

「ぐるっとくん」の利用者数については、平成 31 年度の 48 万人をピークに、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和 2 年度は約 34 万 4 千人と減少しておりましたが、令和 5 年度は、44 万 4 千人と回復傾向にあります。

令和元年度に「ぐるっとくん」に対する市民アンケート調査を行ったところ、「運行本数」や「運行時間帯」に対して「満足度は低い」とのアンケート結果が示され、令和 3 年度の「ぐるっとくん」利用者へのアンケート調査でも、「増便を求める」意見を多く頂戴したところです。

一方、運行経費に関しては、物価や燃料費、運転手の人件費高騰を受けて、年々右肩上がりで増額している状況でもあり、2024 年の働き方改革関連法の改正により、運転手不足も深刻な状況となっております。

こうした中で、上尾市では、公共交通事業者や学識経験者、官公庁、公共交通利用者等で構成する「上尾市地域公共交通活性化協議会」において、「上尾市地域公共交通計画」に位置付けられた、「ぐるっとくん」見直しに関し、市民の要望に応えながら、現在の運行をさらに安定的に、また効率的で効果的に運行することが出来るよう、『市内循環バス「ぐるっとくん」見直し実施方針』を策定したところであり、この実施方針に基づき、『市内循環バス「ぐるっとくん」の運賃の見直し（案）』を作成いたしました。

## 1. 市内循環バス「ぐるっとくん」の現状

### 運行、利用状況の概要

- 「ぐるっとくん」は、平成 28 年 2 月に運行再編を行い、現在は 9 路線（車両 10 台）で運行しています。各路線の運行本数は、1 日 4 便～13 便となっています（利用状況や路線長により異なる）。
- 運行再編以降は、利用者数は増加傾向にあり、平成 30 年度には、再編前の水準を上回っていましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で、令和 2 年度からは利用者数が大きく減少しました。
- 運行経費は、運行再編以降、運行内容の変化はあるものの、燃料費や人件費の上昇により、年々増加しています。特に平成 31 年度以降の増加が顕著です。
- 収支率は、これまで 20%以上で推移していましたが、現状は 16%前後となっております。

表 1 <市内循環バス「ぐるっとくん」の利用状況>

		H28	H29	H30	H31 (R1)	R2	R3	R4	R5	
利用者数	実績	427,475	443,082	468,262	480,306	344,353	382,168	420,195	444,371	人/年
	実績	1,171	1,214	1,283	1,368	943	1,047	1,151	1,214	人/日
	対H28比	100%	104%	110%	117%	81%	89%	98%	104%	%
収支率※	実績	24.0%	24.2%	24.2%	23.3%	15.3%	15.5%	15.9%	16.1%	%

※収支率とは、バス運行経費に対する運賃等の収入割合を表す

## 2. 市内循環バス「ぐるっとくん」の運賃の見直し

### 1. 運賃改定の必要性

「ぐるっとくん」は、平成 10 年より運行を開始し、上尾駅を中心に市内を網羅的に運行しておりますが、市民の生活交通手段確保の観点から、運賃は運行開始当初から 100 円均一とし、これまで運行を継続してきました。

しかしながら、新型コロナウイルスの感染拡大の影響もあり、令和 2 年度以降はコロナ前より利用者数が減少しており、運転手不足や労務環境の改善、燃料費等の高騰の影響から、運行経費も増加を続けています。

また、市内の民間路線バスの初乗り運賃は 200 円に上がっており、「ぐるっとくん」の一部路線は民間路線バスと重複しているため、「ぐるっとくん」と民間路線バスで運賃格差が生じています。

これらを踏まえ、市内の公共交通網全体の維持に向け、以下の観点から、「ぐるっとくん」の運賃改定が必要となっております。

### ①民間路線バスとの運賃格差解消

- ・以前から、「ぐるっとくん」のようなコミュニティバスは、市民の利便性の向上を図るため、運賃を比較的低廉なものとするケースが続いていました。
- ・しかし、現在は公共交通網全体を維持する観点から、民間路線バスとの運賃格差を解消する事例が増加しています。
- ・また、新型コロナウイルスの影響で民間路線バスの利用者数も減少しており、市内移動の骨格となる民間路線バスを維持することも求められます。
- ・このため、「ぐるっとくん」と民間路線バスの運賃格差を解消し、市内全体の公共交通網の維持を図ることが必要です。

### ②「ぐるっとくん」の運行維持

- ・「ぐるっとくん」は、平成28年2月の再編後、収支率は20%台で推移してきましたが、新型コロナウイルスの影響による利用者数の減少や、人件費の高騰等による運行経費の増加が要因となり、令和5年度も収支率16.1%と厳しい状況にあります。
- ・令和3年度から令和5年度にかけては1日当たりの利用者数が千人を超え、回復傾向にありますが、依然としてコロナ前より利用者数は減少しており、運行経費は今後も増加する見込みです。
- ・以上を踏まえ、「ぐるっとくん」の運行維持の観点から、収入確保の一環として、運賃改定が必要となっています。

### ③「ぐるっとくん」の今後の見直し

- ・今後、市民や利用者ニーズに対応した「ぐるっとくん」の増便を含めた運行見直しを予定しています。これまで以上に運行経費がかかることから、収益確保のためにも、運賃改定が必要となっています。

## 2. 運賃改定の方向性

### ■運賃改定の方針

- ・現行の 100 円均一運賃について、以下のとおり、「ぐるっとくん」の増便を含めた運行見直しに合わせて、運賃の見直しを考えます。
- ・なお、これに合わせて、運賃割引対象者を拡大してまいります。

**均一運賃： 現行 100 円 → 改定後 200 円**

### ■運賃割引の方針

- ・運賃割引については、「ぐるっとくん」の運賃の見直しに合わせて行います。高齢者の外出機会の創出を引き続き図ると共に、小学生の運賃を民間路線バスと同等とするため、以下のとおり、運賃割引を実施いたします。

対象者	現行	改定後	根拠・理由など
未就学児	無料	無料 (継続)	
障害者の方 ※1	無料	無料 (継続)	
小学生	割引対象外	<b>100 円</b>	小学生の利用促進や将来の利用定着のほか、小学生を含む家族連れでの利用促進も見据え、割引します。なお、民間路線バスも小学生以下を半額としており、この利用と合わせます。
75 歳以上の方	割引対象外	<b>100 円</b>	高齢者の外出機会の創出を図るため、割引します。対象年齢については、収支状況や他自治体の状況も踏まえつつ、「運転免許証自主返納者支援事業※2」の対象年齢と整合を図るよう後期高齢者からを対象とします。

※1 身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳のすべての所持者、および身体障害者手帳第 1 種、または療育手帳第 1 種所持者の介護者 1 人を対象とします。

※2 75 歳以上の免許返納者に対し「ぐるっとくん」の乗車回数券を 24 枚配布しています。なお、本事業は運賃改定後も継続します。